

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和4年度第8回）議事概要
日 時：令和4年11月25日（金）10：30～12：00
場 所：国立がん研究センター 管理棟 第一会議室 ※Webex 使用
出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、児玉安司理事、北川雄光理事、北川昌伸理事、
本田麻由美理事、小野高史監事、近藤浩明監事、島田中央病院長、大津東病院長

I. 前回（令和4年度第7回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を本田理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

1. 新収益認識基準への対応について（中間報告）

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・NCC は早い時期から周到な準備、対応に当たっていることは評価に値する。新しい認識基準については事務方のみが把握していればよいのか、それとも研究者も把握しておく必要があることなのか。
- －基本的には事務方の対応になると思われるが、研究者にも認識していただきたい部分も出てくるとと思われる。現在取りまとめ中の現状把握を踏まえて検討、必要な部分は早急に情報提供し、研究者の方々にもご協力をいただきながら進めていきたいと考えている。

III. 報告事項

1. 国立がん研究センター発ベンチャーの認定について

資料に沿って報告された。

2. 研究開発費システムについて

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・現在、研究開発費に関しては、競争的な意味合いとは区分けしてセンターとして運用しているが、データを統一化することで獲得情報の一元管理が可能になること、戦略面でも大いに有意義であると考え。

3. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・人口動態の変化、出生数の急激な減少による全体の人口減に伴って将来の医療提供体制について急速に議論が進んでいくと予想される。NCC としても対応について慎重に検討を進めていきたい。
- ・地域医療支援病院について定めた医療法第4条が制定されてから約30年経っている。かかりつけ医については医療法施行規則にも明文化されておらず、在宅医療との関連も含め、どのように設計するかについても検討中という認識であるが間違いないか。
- 詳細には把握していないが、ご認識の通りではないかと考える。
- 医療提供の今後のあり方については大きな課題であり、法律での定義づけが今後求められるのではないかと感じている。

4. 広報実績等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

・乳がん患者さんの再発に対する恐怖感軽減についてはJ-SUPPORTの事業計画の中で、サバイバーシップの充実、がんと共生、QOLの向上の観点からの臨床試験の一つの大きな成果である。特に今回は「患者・家族の参画」を重視しており、医療者ではなく、患者・家族の目線から取り組んでいる。今後NCCとしてもこういった成果を引き続き出していきたいと考えている。

5. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

・モニタリングの途中で様々な副次的影響が加味されることがある。当初の計画をどのくらい達成したかのモニタリングに加え、どのような副次的効果があったかについて分けて整理しながら進めていきたいと考えている。

6. 10月分医業件数等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

・病棟の一部閉棟など新型コロナウイルスの影響が長引く中、両病院共に努力いただいている。引き続き感染対策に十分配慮しながら医療提供に努めていきたい。